

まちづくりビジョン中間報告会 会議録

■ 日 時：平成26年5月27日（火）午後2時00分～午後4時35分

■ 場 所：みなかみ町カルチャーセンター ホール

■ 出席者

①まちづくりビジョン策定委員会（12／13名）

小林 洋、小野 章一、鈴木 和雄、津久井 功、木村 孝弘、持谷 美奈子、
中島 エリ、渡辺 一彦、金子 崇範、高橋 直也、本多 圭仁、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（3／3名）

まちづくり交流課長 宮崎 育雄、商工振興GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

④その他（162名）

役場（38名）、議会（13名）、商工会、観光協会、林野庁（利根沼田森林管理署、
赤谷森林ふれあい推進センター）、国土交通省、水資源機構、群馬県（利根沼田環境森
林事務所、利根沼田農業事務所、蚕糸園芸課、観光物産課、国際戦略課）、農村公園公
社、川場村役場 外

※ 詳細は別紙「受付簿」のとおり

■ 配布資料

資料1 まちづくりビジョン中間報告会次第

資料2 まちづくりビジョン中間報告会プレゼン資料

■ アンケート

①回収数（73件）

②集計結果

※ 別紙「アンケート集計結果」のとおり

■ 次第

1 開会 14：00

2 あいさつ（まちづくりビジョン策定委員会 委員長 鈴木 和雄） ～14：15

本町も合併してから9年になる。委員会の設置は、過去を振り返り10～20年先の
本町の姿を定め町政を進めていきたいという町長の決意の表れだと思う。我々もアドバ
イザーの平松氏の協力のもと、ビジョンの策定に努めていきたい。また、本日の報告を
受けて、みなさまの貴重なご意見を頂ければ幸いである。

3 報告（小僧 com 株式会社 代表取締役会長 平松 庚三） ～15：00

※ 別紙プレゼン資料のとおり

4 質疑応答 ～15:05

Q1 (品田 賢一 氏)

谷川岳はスイスのマッターホルンやフランスのモンブランなどと共通する部分があって、山岳観光ビレッジとしての資質を持っている。1つのアイデアとして、そこに国立スキー登山学校を誘致し、ユネスコエコパークと結び付けてはどうか。欧州各国にはあるのに、日本にはまだない。

A1 (平松 庚三 氏)

委員会でも小中学生のスキーの授業時間が減少しているし、みなかみのスキーが衰退しつつあるという意見はあった。すばらしい意見であって、一つのアイデアとして頂戴いただく。

5 コメント (みなかみ町長 岸 良昌) ～15:15

今後、日本の人口が減少していくことは間違いのない話で、本町を継続できるためにも委員会のみなさんにアイデアを議論いただいている。ユネスコエコパーク認定がどれだけ役に立つのか、本当に認定されるのかなどリスクは高いと思うが、失敗してもやるべきだと素直に思っている。現状のまま放っておく(これまで程度のことしかやらない)のでは24～27年後には人口が半分になると推計されており、それは絶対に許されない。そのためには何かをやっていかなければならないし、どんどんやっていくべき。首都圏からの交通の利便性がよいというメリットがあるのだから、あるものを活かさなければならぬ。その一つの切り口が先ほど発表のあったエコパークであって、それに向かってみんなでやっていこうというものだと思う。町としても一緒にやっていきたいし、役場の中の人材を確保することが重要であると思うので考えていきたい。

<休憩 ～15:30>

6 講演 (上海スマートビジネスコンサルティング 社長 張 凌蘭) ～16:35

テーマ:『求められる新しい日本旅行の形』

※ 別紙プレゼン資料のとおり

7 閉会 16:35